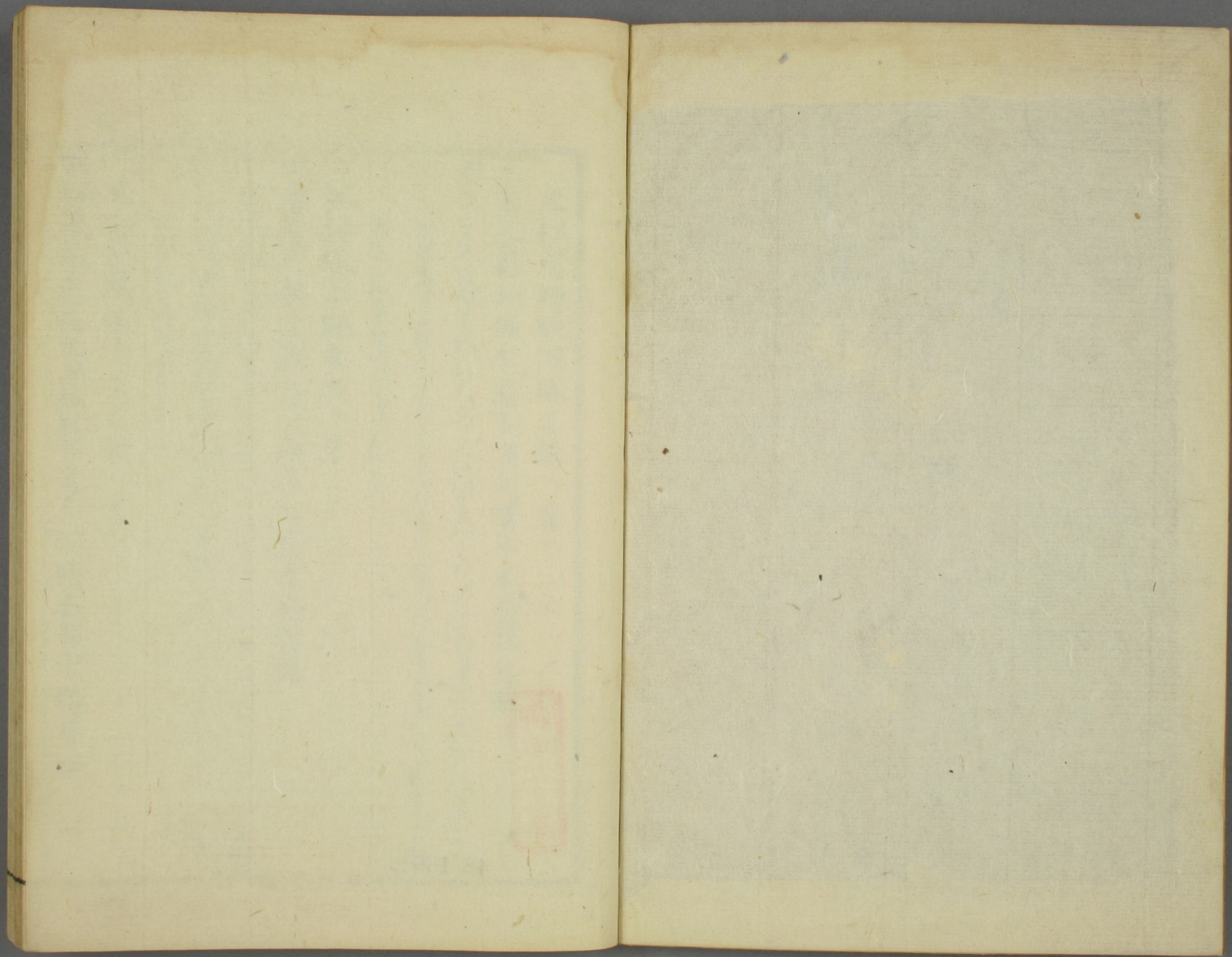




柳田文庫
文庫11
A 104
8







文庫11
A 104
8

大伴宿禰駿河麻呂歌一首

大夫之思和備乍遍多嘆久嘆乎不負物可聞
まをらそそのおひわびつたじまねくたぐくたをまよとおねそのもの
たじまねくたぐくたをまよとおねそのもの
ふうらみをとつたをいへり

大伴坂上郎女歌一首

心者忘日無久雖念人之事社繁君爾阿禮

こころわすれぬひなすくおねのひのこころを忘げきたまふまあれ
たじまねくたぐくたをまよとおねそのもの
ふうらみをとつたをいへり

大伴宿禰駿河麻呂歌一首

不相見而氣長久成奴比日者奈何好去哉言借吾妹



あひまどてけだつてつちあめこのごころいふよるくやいぶのちまよ
けぞくはらまきくおこもよくとほくよけくとりよくくハ平安ちり
やしひハ年中耕くとりよ日ハ、新中言まハ在の法ハ、奇明紀好在とら
てまきくもんまやとよありより、言借ハ借さもくハいひひのり

大伴坂上郎女歌一首

夏葛之不絶使乃不通有者言下有如念鶴鳴

なつぐものたえぬつづきのよとたれいこもあつておひいつるのよ

夏葛之不絶の使乃不通有者言下有如念鶴鳴

なつぐものたえぬつづきのよとたれいこもあつておひいつるのよ

一ハハハハ

右坂上郎女者佐保大納言卿女也駿河麻呂此高市

大卿之孫也兩卿兄弟之家女孫姑姪之族是以題歌送

万解四下

谷相問起居

佐保大納言ハ女麻呂大卿ハ高市麻呂也

大伴宿禰三依離復相歡歌一首

歡々々歎々々目涙及之唐

あふよるくくあつ

吾妹兒者常世國爾住家良思昔見從愛若益爾家利

わぎしこいとこよのくあふよるくくあつむいりみよりわつるまにわらこ

見ふわこハ大伴坂上郎女とまやわつるハ高市麻呂也

大伴坂上郎女歌二首

久堅乃天露霜置二家里宅有人毛待戀奴盥

ひささののあめのつゆもあまひくわいひなるいとまもこいひぬらむ

つゆハ天露霜置二家里宅有人毛待戀奴盥

らんおちるハ後河原の妻とりたふべ

玉主爾珠者授而勝且毛枕與吾者率二將宿

たまたまなまらびけりかき
空もあはれなまらびけりかき
路はなれとてなまらびけりかき
こころは女もかきなまらびけりかき
除加都カツカツモイマサキダテルエヲシニカシと母伊夜依岐陀瓦流近表斯麻如字とてく見くくもの未憐きん
はつたてなまらびけりかき
物もなまらびけりかき
ていへなまらびけりかき
よのこころはなまらびけりかき

大伴宿禰駿河麻呂歌三首

情者不忘物乎儻不見日數多月曾經去來

こころはなまらびけりかき
いあはれなまらびけりかき
まねくの泪はまらびけりかき

相見者月毛不經雨意云者乎曾口登吾乎於毛保寒毳

あひみていつきしはつたてなまらびけりかき

まねくの泪はまらびけりかき
まねくの泪はまらびけりかき
まねくの泪はまらびけりかき

不念身思常云者天地之神祇毛知寒邑禮左愛

おとろふとわらふとてなまらびけりかき

まのちとてなまらびけりかき
まのちとてなまらびけりかき
まのちとてなまらびけりかき

たをとりてしんがさしつるものぞけきまひよのたつてんきてこはれゆえ
まんぢいこはれゆえいひをこはれゆえいひをこはれゆえいひをこはれゆえ
まじしきやまのまじしきやまのまじしきやまのまじしきやまのまじしきやまの
ま起いおこしものおこしものおこしものおこしものおこしものおこしもの
憲憲而相有時谷愛寸事盡乎四長常念者
こひておんまじしきやまのまじしきやまのまじしきやまのまじしきやまの
事ハ言ハぬものもくまじしきやまのまじしきやまの

市原王歌一首

網兒之山五百重隱有佐堤乃埒左手蠅師子之夢二四所見

あゝのやまいひかくせまのまじしきやまのまじしきやまのまじしきやまの
あゝの山志摩英虞那の山かくせまのまじしきやまのまじしきやまの

おくれし人ともわゆるいひたれはつとよりえん室をまじしきやまのまじしきやまの
志氏神社ありと志を後とりつるもの佐堤の作の信れ侍の信え
こゝまのまじしきやまのまじしきやまのまじしきやまのまじしきやまの
まじしきやまのまじしきやまのまじしきやまのまじしきやまの

安部宿禰年足歌一首

まじしきやまのまじしきやまのまじしきやまのまじしきやまのまじしきやまの
まじしきやまのまじしきやまのまじしきやまのまじしきやまのまじしきやまの
まじしきやまのまじしきやまのまじしきやまのまじしきやまのまじしきやまの
まじしきやまのまじしきやまのまじしきやまのまじしきやまのまじしきやまの

佐穂度吾家之上二鳴鳥之音夏可思士良愛妻之兒

まじしきやまのまじしきやまのまじしきやまのまじしきやまのまじしきやまの
まじしきやまのまじしきやまのまじしきやまのまじしきやまのまじしきやまの
まじしきやまのまじしきやまのまじしきやまのまじしきやまのまじしきやまの
まじしきやまのまじしきやまのまじしきやまのまじしきやまのまじしきやまの

大伴宿禰像見歌一首

後紀天平宝字八年十月正六位上大伴宿

祿形見授後五位下

石上零十方雨二將闕哉妹似相武登言義之鬼尾

いそののみよささしあはふささるめいりふあんといひてそのそ

いそののうも梅河ふつあんとあよひあしつたふのとはまんといひ

義の義の後なるものそをいひ

安倍朝臣蟲麻呂歌一首

後紀天平九年九月正七位上阿部朝臣虫

麻呂授外後五位下

向座而雖見不飽吾妹子二立離往六田付不知毛

むむいあてみれしあのむぎこにふちわれゆんだぶさうら

たれとそらふ大伴坂とあ女へ我よりみく物

大伴坂上郎女歌二首

万解四下 五

不相見者幾久毛不有國幾許吾者戀乍裳荒鹿

あひみぬいづくもいさもあはれもふこころれいさひもあは

戀戀而相有物字月四有者夜波隱良武須臾羽蟻待

こひこてあひこるものそつきあはれよこころん志まひあはれ

あはこころんこは物修よよあまきんせむねるといふや、あはれのお

せむとのよまことまののころのいさそまのあはれおまもる月の

とらあはれ、あはれあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれ

あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれ

右大伴坂上郎女之母石川内命婦與安倍朝臣蟲滿之
母安曇外命婦同居姊妹同氣之親焉緣此郎女蟲滿相
見不踈相談既密聊作戲歌以為問答也

厚見王謔一首

後紀天平勝宝元年四月授無位厚見王後五位下

朝雨日雨色付山乃白雲之可思過君雨不有國

あさひけふしるしやまのしら雲の思過君雨不有國
あさひけふしるしやまのしら雲の思過君雨不有國
あさひけふしるしやまのしら雲の思過君雨不有國
あさひけふしるしやまのしら雲の思過君雨不有國

たのふ

春日王歌一首

元 志貴皇子之子母曰多紀皇女也

足引之山橋乃色丹出而語言繼而相事毛將有

あひきのやまのしらはのいろぞかきひびきあふもあふも
あひきのやまのしらはのいろぞかきひびきあふもあふも
あひきのやまのしらはのいろぞかきひびきあふもあふも
あひきのやまのしらはのいろぞかきひびきあふもあふも

万解四下 六

湯原王歌一首

月讀之光二來益足疾乃山乎陽而不遠國

つきよみのひかりのふたまたま益足疾乃山乎陽而不遠國
つきよみのひかりのふたまたま益足疾乃山乎陽而不遠國
つきよみのひかりのふたまたま益足疾乃山乎陽而不遠國
つきよみのひかりのふたまたま益足疾乃山乎陽而不遠國

月よみのひかりのふたまたま益足疾乃山乎陽而不遠國

和歌一首 不審作者

月讀之光者清雖照有惑情不堪念

つきよみのひかりのあきらかに照るも惑情不堪念
つきよみのひかりのあきらかに照るも惑情不堪念
つきよみのひかりのあきらかに照るも惑情不堪念
つきよみのひかりのあきらかに照るも惑情不堪念

月のあきらかに照るも惑情不堪念

安倍朝臣蟲麻呂歌一首

倭文手纏數二毛不有壽持奈何幾許吾意渡

文ヲ又
二誤

まづこの世にまはるるあはれをば
まづこの世にまはるるあはれをば
まづこの世にまはるるあはれをば
まづこの世にまはるるあはれをば
ぬ身はばをきくしやうしやう

大伴坂上郎女歌二首

真十鏡磨師心乎縦者後雨雖云驗將在八方

まろがみまろしきりるまろしきりるまろしきりるまろしきりる

まろしきりるまろしきりるまろしきりるまろしきりる

まろしきりるまろしきりるまろしきりるまろしきりる

真玉付彼此魚手言齒五十戸常相而後社悔二破有跡五
十戸

まろしきりるまろしきりるまろしきりるまろしきりる

まもつてほひうらちらららららららららららららららららら
まもつてほひうらちらららららららららららららららららら

中臣女郎贈大伴宿禰家持歌五首

娘子部四咲澤二生流花勝見都毛不知憲裳摺可聞

ななこはへりまはるるはなはなはなはなはなはなはなはなはな

ななこはへりまはるるはなはなはなはなはなはなはなはなはな

ななこはへりまはるるはなはなはなはなはなはなはなはなはな

ななこはへりまはるるはなはなはなはなはなはなはなはなはな

ななこはへりまはるるはなはなはなはなはなはなはなはなはな

ななこはへりまはるるはなはなはなはなはなはなはなはなはな

ななこはへりまはるるはなはなはなはなはなはなはなはなはな

ななこはへりまはるるはなはなはなはなはなはなはなはなはな

とつるをばあはれにうつらうつらとすむをばあはれにうつらうつら

海底奥乎深目手吾念有君二波将相年者經十方

わこのうごちをまよとやのあてわがらむまよよあらんとはるぬとも

細ハはるぬともらん梅の

春日山朝居雲乃鬱不知人爾毛憲物香聞

かよふやまのあはれをののあはれよきぬいふやまのあはれをののあはれ

一二のちひはれよきぬいふやまのあはれよきぬいふやまのあはれ

直相而見而者耳社靈尅命向吾意止眼

たよあひてみるのいふやまのあはれよきぬいふやまのあはれ

あまのあはれをうつらうつらとすむをばあはれにうつらうつら

いふやまのあはれをののあはれよきぬいふやまのあはれ

はるぬともらん梅の

不欲常云者將強哉吾背管根之念亂而憲管母將有

いふやまのあはれをののあはれよきぬいふやまのあはれ

あまのあはれをうつらうつらとすむをばあはれにうつらうつら

あんとくともあはれ梅の

大伴宿禰家持與交遊別歌三首 目録より別のところ

蓋毛人之中言聞可毛幾許雖待君之不来益

けしきいひのちのうごちをまよとやのあてわがらむまよよあらんとはるぬとも

あまのあはれをうつらうつらとすむをばあはれにうつらうつら

中々雨絶年云者如此許氣緒雨四而吾将意八方

あまのあはれをうつらうつらとすむをばあはれにうつらうつら

あまのあはれをうつらうつらとすむをばあはれにうつらうつら

あまのあはれ

相念人雨有莫國熱情盡而意流吾羸
あひおもひしあわわくふねくころよころしんらんらんれい

相とて将をなほ忘れずあはれまほしくあり

大伴坂上郎女歌七首

謂言之恐國曾紅之色莫出曾念死友

いさもののかこころもあはれもあはれいりたのてそわりのしきわとも

かこころもあはれもあはれもあはれいりたのてそわりのしきわとも

いさもののかこころもあはれもあはれいりたのてそわりのしきわとも

かこころもあはれもあはれもあはれいりたのてそわりのしきわとも

今者吾波将死與吾背生十方吾二可縁跡言跡云莫苦荷

いまはるまゝ人よわつせのあはれもあはれいりたのてそわりのしきわとも

いさもののかこころもあはれもあはれいりたのてそわりのしきわとも

人事驚哉君乎二朝之家平陽而意乍將座
ひとごとくまげたはたけのくにきくまのいさもののかこころもあはれもあはれいりたのてそわりのしきわとも

人事驚哉君乎二朝之家平陽而意乍將座

ひとごとくまげたはたけのくにきくまのいさもののかこころもあはれもあはれいりたのてそわりのしきわとも

いさもののかこころもあはれもあはれいりたのてそわりのしきわとも

いさもののかこころもあはれもあはれいりたのてそわりのしきわとも

比者千歳八往裳過與吾哉然念欲見鴨
いさもののかこころもあはれもあはれいりたのてそわりのしきわとも

比者千歳八往裳過與吾哉然念欲見鴨

いさもののかこころもあはれもあはれいりたのてそわりのしきわとも

いさもののかこころもあはれもあはれいりたのてそわりのしきわとも

いさもののかこころもあはれもあはれいりたのてそわりのしきわとも

いさもののかこころもあはれもあはれいりたのてそわりのしきわとも

かみせやいぬ

愛常吾念情速河之雖塞友猶哉將崩

うつくしむかしのうたもあまのこころをわすれぬまほしきものぞつれぬ

あまのこころをわすれぬまほしきものぞつれぬ

あまのこころをわすれぬまほしきものぞつれぬ

青山乎横斂雲之灼然吾共咲為而人二所知名

あまのこころをわすれぬまほしきものぞつれぬ

あまのこころをわすれぬまほしきものぞつれぬ

あまのこころをわすれぬまほしきものぞつれぬ

海山毛隔莫國奈何鴨目言乎谷裳幾許之寸

あまのこころをわすれぬまほしきものぞつれぬ

あまのこころをわすれぬまほしきものぞつれぬ

さくらよ日輝しこゝろぬくしよあめ

大伴宿禰三依悲別歌一首

照日乎闇爾見成而哭淚夜沾津于人無二

てれしひとやみみちりてたぐもみづこころをぬくしよあめ

あまのこころをわすれぬまほしきものぞつれぬ

あまのこころをわすれぬまほしきものぞつれぬ

あまのこころをわすれぬまほしきものぞつれぬ

大伴宿禰家持贈娘子歌二首

百磯城之大宮人者雖多有情爾乘而所念妹

かきのおみややむいとおみやのれごころをぬくしよあめ

あまのこころをわすれぬまほしきものぞつれぬ

あまのこころをわすれぬまほしきものぞつれぬ

得羽重無妹二毛有鴨如此詩人情乎今盡念者

うさねのよきあはれをばあはれはるるいよのころとつくらゆりけ
びきりのよきあはれをばあはれはるるいよのころとつくらゆりけ
びきりのよきあはれをばあはれはるるいよのころとつくらゆりけ

大伴宿禰千室歌一首 未詳

如此耳意哉將度秋津野爾多奈引雲能過臨者無二

かこのみよひやわらふあはれなむいづくもれとくはたやに

おはゆの改よむちよまのりやあはれをよみく速くえり
やとくしやあはれをよみく速くえりやとくしやあはれをよみく速くえり

ぬかり

廣河女王歌二首

後紀天平宝字七年正月無位廣河王授後五位
下とく不破内親王よ次で歌されび女もたつべ

意草呼力車二七車積而意良苦吾心柄

いしんあはれとちのまふたたくまよつみくしやわらるる
まよつみくしやわらるるまよつみくしやわらるる
まよつみくしやわらるるまよつみくしやわらるる

意者今葉不有常吾羽念乎何處意其附見繫有

いしんあはれとちのまふたたくまよつみくしやわらるる
まよつみくしやわらるるまよつみくしやわらるる
まよつみくしやわらるるまよつみくしやわらるる

石川朝臣廣成歌一首

後紀天平宝字二年八月後六位上石川
朝臣廣成授後五位下とくゆ

家人雨意過目八方川津鳴泉之里雨年之歷去者

くびとんこいしぎめやもかろづたもくづみのももふぞーのくぬれば

久遠の郡へ遷さればかたらのあつまきとおまゝいよもかろん

大伴宿禰像見歌三首

吾聞雨鬢莫言刈薦之亂而念君之直香曾

わづきしむけなほいそがうごのみだれもあまたみだれあぞ

かりごしの柱何たごのいもへて人のへのさちもまほはとあつちもまほ

宮もまほ年中正香しちのしるたごの刈薦あつちもまほはとあつちもまほ

ふるふちたれあつちもまほのあつちもあつちもあつちもあつちもあつちも

あつちもあつちもあつちもあつちもあつちもあつちもあつちもあつちも

このあつちもあつちもあつちもあつちもあつちもあつちもあつちもあつちも

春日野雨朝居雲之敷布二吾者意益月二日二異二

かろづたもくづみのももふぞーのくぬれば

あつちもあつちもあつちもあつちもあつちもあつちもあつちもあつちも

あつちもあつちもあつちもあつちもあつちもあつちもあつちもあつちも

一瀬二波千遍障良比逝水之後毛将相今爾不有十方

いそがめはちいそがめはちいそがめはちいそがめはちいそがめはちいそがめ

あつちもあつちもあつちもあつちもあつちもあつちもあつちもあつちも

大伴宿禰家持到娘子之門作歌一首

如此為而哉猶八將退不迹道之間乎煩參來而

かろづたもくづみのももふぞーのくぬれば

あつちもあつちもあつちもあつちもあつちもあつちもあつちもあつちも

あつちもあつちもあつちもあつちもあつちもあつちもあつちもあつちも

河内百枝娘子贈大伴宿禰家持歌二首

波都波都爾人乎相見而何將有何日二箇又外二將見
はつふびとをあひみくいのわくんいづれのいあのみまよふくふみ

その夜は神をさぐりてとらふ
らふんんん

夜干玉之其夜乃月夜至于今日吾者不忘無間苦思念者
ゆぐまのそのよのついでに今日も忘れぬまがく一いつい

巫部麻蘇娘子歌二首 巫部宿禰の娘

吾背子乎相見之其日至于今日吾衣手者乾時毛奈志
わがせごといひみそのいさをまがでよわごころりていひるまよふ

その夜は神をさぐりてとらふ

榜繩之永命乎欲苦波不絶而人乎欲見社

たぐわはのぢうまいのちとほりくくくくくくくくくくくくくくくく

たぐわはのぢうまいのちとほりくくくくくくくくくくくくくくくく
あれとらふ

大伴宿禰家持贈童女歌一首

葉根縵今為妹乎夢見而情内二意度鴨

はねづらいまもいひていひていひていひていひていひていひていひ

たぐわはのぢうまいのちとほりくくくくくくくくくくくくくくくく
まよふくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
へいびくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
いまのちとらふ

童女來報歌一首

安都麻娘子歌一首

安都麻氏多山人

三空去月之光二直一目相三師人之夢西所見
みそらあきつきあひのひあふふしああひみいとのいあかみゆる

丹波大娘子歌三首

丹波大の下の女をまゝ新入をまゝ丹波の氏

鴨鳥之遊此池雨木葉落而浮心五言不念國

かきうのあそぶこのいけよのばおちりうきこころのこもかきよ

かきうがとくんとあそぶのいけよのばおちりうきこころのこもかきよ

味酒呼三輪之祝我忌杉手觸之罪歟君二遇難寸

うまげをよこのはつうのいんまきてらけつみやまひびき

うまげとゆめをうりうりうきこころのいんまきてらけつみやまひびき

けつみやまひびきてらけつみやまひびき

垣穗成人辭聞而吾背予之情多由多比不合頃者

かきかななりひささきつてわのせごころさゆいあひぬこのころ

かきかななりひささきつてわのせごころさゆいあひぬこのころ

かきかななりひささきつてわのせごころさゆいあひぬこのころ

かきかななりひささきつてわのせごころさゆいあひぬこのころ

大伴宿禰家持贈娘子歌七首

情爾者思渡跡縁字無三外耳為而嘆曾吾為

こころまおひわらんれいをわまよそのみふくたのなまこわのき

こころまおひわらんれいをわまよそのみふくたのなまこわのき

千鳥鳴佐保乃河門之清瀬字馬打和多思何時將通

ちどりかやくさほのかたのきよまふせとまらちわんじつかよひ

ちどりかやくさほのかたのきよまふせとまらちわんじつかよひ

獨ヲ將
二誤志
八感
保

夜晝云別不知五口戀情蓋夢所見寸ハ

よるしやいふはきつらひこのこころのけつこころのけつこころのけつこころのけつ

都禮毛無將有人乎獨念爾吾念者感毛安流香

つゆわつゝあゝ人いふとがこゝろのけつこころのけつこころのけつこころのけつ
はれうあゝ人いふとがこゝろのけつこころのけつこころのけつこころのけつ
わつあゝ改つ感ハ感の信なきこゝろのけつこころのけつこころのけつこころのけつ
字ヲ感ハ憂也と云

不念爾妹之咲憊乎夢見而心中二燎管曾呼留

わらえぬふいじがたましいをいぬみこころのけつこころのけつこころのけつこころのけつ

丈夫跡念流吾乎如此詩三禮二見津禮片思男責

情ヲ於
二誤

まじらうとておつたわれをかくばらうとみつれまみつれかこゝろのけつ

これとこゝろのけつこころのけつこころのけつこころのけつこころのけつ
也の語の紀は羸とみつれと訓を、あつたれの語を、妻ハせんの語を
情ハ寒とせんの語を、あつたれの語を、

村肝之情摧而如此詩余意良苦乎不知香安類良武

むらきものこゝろのけつこころのけつこころのけつこころのけつこころのけつ

村肝の物詞情を、於ては、あつたれの語を、

獻 天皇歌一首

とせらるばらうとて天皇の歌二首とあり、こゝろのけつこころのけつこころのけつこころのけつ
こゝろのけつこころのけつこころのけつこころのけつこころのけつこころのけつ
即女宮へ入るこゝろのけつこころのけつこころのけつこころのけつこころのけつ
のまのや

足引乃山二四居者風流無三吾為類和射乎害目賜名
あびきのやまのなれにやあびのつとむるわらふとぞめしものつた
何ぞ山をいびくも地をぬるまきくともわらふべし風流をみやひと

河のまをこつたひと

大伴宿禰家持歌一首

如是許意尔不有者石木二毛成益物乎物不思四手

かづはのまをこつたひと

本の心に改よいつたはたきくもおおしつてあんとと

大伴坂上郎女從跡見庄贈賜留宅女子大嬢歌一首并

短歌

常呼二路吾行莫國小金門雨物悲良爾念有之

とこよおとわのゆのたふくふをわらふとよものかたしつらふねとへ

吾兒乃刀自緒野干王之夜晝跡不言念二思吾身者瘦奴
わづののこをぬやまのよるひるといふやわらふやいやくぬ
嘆丹師袖左倍沾奴如是許本名四戀者古郷雨
なげくみそがさぬれぬかづはのまをこつたひと
此月期呂毛有勝益士

このつきころもあかきまを

当世よりいづくもあつたをいふ呼は奥の語のよをかきとに換やと
り安康紀奇よおほまへとまををくねの訶那社加磯社名
金つし人のよまてはむかひとまをこつたひと
十四よこをよるやあかきとらうといふこと別す時のまをこつたひと
のまをこつたひとあかきといふ流まをこつたひと
世をわらふとあかきといふとあかきといふとあかきといふと

反歌

在場... 坂上... 夢雨... 見家留...

朝髪之念亂而如是詩名娣之愆曾夢雨所見家留

あまがみの... 髪... 念... 亂... 詩名娣... 愆... 曾夢雨... 所見家留...

右歌報賜大嬢歌也

一本は...

獻天 天皇歌二首

そはよ...

二寶鳥乃潜池水情有者君雨吾愆情示左禰

に...

和名抄 鷓鴣

和名抄 鷓鴣 近保野鳥小 而好没水中也...

外居而... 意尔不有者君之家乃池爾住云鴨二有益雄

外居而意尔不有者君之家乃池爾住云鴨二有益雄

よそふ... 梅... 鴨... 池... 鴨二有益雄...

大伴宿禰家持贈坂上家大嬢歌二首

雖絶 數年後 會相聞 往來

萱草吾下紐爾著有跡鬼乃志許草事二思安利家理

わかれぬいひの志いひまはつけれぬ志この志こけつこけつあはけり
萱草と書れはまゝと云ふもいふも政まは鬼とわかれぬいひの志こけつ
遠志と云ふといふべし二つは志まゝと云ふの志は鬼の志の志の志
何ぞいふれはあはけりこけつこの志こけつこけつこけつこけつ
一子の志はあはけりまれん志はまゝと云ふもいふも政まは鬼とわかれ
ぬあはけりまれん志の志の志の志の志の志の志の志の志の志の志の志
醜まはけりまれん志の志の志の志の志の志の志の志の志の志の志の志
の志の志の志の志の志の志の志の志の志の志の志の志の志の志の志
志見言ふあはけりまれん志の志の志の志の志の志の志の志の志の志
言のみまゝと云ふもいふも政まゝと云ふもいふも政まゝと云ふもいふも
志まはけりまれん志の志の志の志の志の志の志の志の志の志の志の志

人毛無國母有類吾妹兒與携行而副而將座

いふまゝと云ふもいふも政まゝと云ふもいふも政まゝと云ふもいふも
くまもあはけりまれん志の志の志の志の志の志の志の志の志の志の志

大伴坂上大嬢贈大伴宿禰家持歌三首

玉有著手二母將卷字辭瞻乃世人有著手二卷難石

たまあはけりまれん志の志の志の志の志の志の志の志の志の志の志
瞻はせみのの志の志の志の志の志の志の志の志の志の志の志の志

將相夜者何時將有乎何為常香彼夕相而事之繁裳

あはけりまれん志の志の志の志の志の志の志の志の志の志の志の志
まゝと云ふもいふも政まゝと云ふもいふも政まゝと云ふもいふも

人用志まゝと云ふもいふも政まゝと云ふもいふも政まゝと云ふもいふも

吾名著毛千名之五百名雨雖立君之名立者惜社泣

有者
ノ保

わのちのちのいほまふしちぬともきみづわのるるをみこすたけ
まらぬへもい脚履あふの五百名の名をくまるといふまらぬいりて
まらぬの情十とよほすといふ

又大伴宿禰家持和歌三首

今時有四名之惜雲吾者無妹丹因者千遍立十方

いまはりのをきくもわれはなりいふふありてはちうといふも
いまはりの二つの一はゆ群まてくといふ有者のは

空蟬乃代也毛二行何為跡鹿妹雨不相而吾獨將宿

うつせみののやもあふゆくかあふとあといふふありてこのいふも
まてせむるはまると一はゆ群まてくといふ有者のは
ゆくかあふとあといふふありてこのいふも
あといふふありてこのいふも
あといふふありてこのいふも

吾念如此而不有者玉二毛我真毛妹之手二所纏年

わのおぼしむるはあふとあといふふありてこのいふも
あといふふありてこのいふも
あといふふありてこのいふも
あといふふありてこのいふも

同坂上大嬢贈家持歌一首

春日山霞多太利情具久照月夜爾獨鴨念

かきまがらみしあといふふありてこのいふも
あといふふありてこのいふも
あといふふありてこのいふも
あといふふありてこのいふも

又家持和坂上大嬢歌一首

月夜雨波門雨出立夕占問足下乎曾為之行乎欲焉

つくとむんがどいどちゆけしあうらとぞせしゆのちくとほ

あつらふ是ふみく古きとあま、あくとちあまのこいつ、まもま平ハ

まのほろしゆりまほみぢんとつて

同大嬢贈家持歌二首

云云人者雖云若狹道乃後瀬山之後毛將念君

かあうくまひとひしゆもわらさるの乃ちせのやまの乃ちもあまんき

念の會のほは街のいほはとらん料の

世間之苦物雨有家良久意二不勝而可死念者

よのちものこもきみのよありけしこいしんてんせぬまはのい

まのちものよのちのこもきみのよもなるとくららる

せりつ

念の會

又家持和坂上大嬢歌二首

後湍山後毛將相常念社可死物乎至今日毛生有

のちせやまのちもあまはひとせりこり、まぬまきものどふとてい

かへいそのいとあまを、かへいよとまもりてあまもまはとよこ

といつたわれをけ

事耳乎後手相跡歎吾乎今憑而不相可聞

ことのみとのちもあまはひとねもこらよわれをといのめて、あま

言もよのちまんとしひとこれとこのあせてもぼよあまん

とん、空も三信句不相妹可聞と不相有可同とらと人と一字

とらとら、手ハ毛のほ

更大伴宿禰家持贈坂上大嬢歌十五首

夢之相者苦有家里覺而搔探友手二毛不所觸者

手ハ毛

生有代爾吾者未見事絶而如是何於縫流囊者
 いけるよに...

吾妹兒之形見乃服下著而直相左右者吾將脱八方
 わが妹のこがみ...

意死六其毛同曾奈何為二人目他言辞痛吾將為
 こし志か...

夢二谷所見者社有如此許不所見有者意而死跡香
 何ぞ也...

いぬ...

念絶和備西物尾中...

相見而者幾日毛不經字...

如是許面影耳所念者何如將為人目鑿而
 かく...

人しぐさにてはかのちよもつゝあはれど、あはれ人あはれあはれながら
のこりてば、むいふいふせんといふこと

相見者須臾意者、奈木六香登、雖念彌、意益来

あひあてたまれと、いふ、たぎん、の、おれ、ど、い、う、こ、い、ま、さ、さ、け、り、
ま、ま、ん、し、お、ん、や、ん、ち、さ、さ、し、り、さ、ゆ

夜之穗、杼、呂、吾出而、来者、吾妹、子之、念有、四九四、面影、二、三、
湯

よのほ、ろ、わ、ご、う、れ、た、き、た、こ、の、お、れ、入、り、と、い、う、お、も、か、げ、ま、み、ゆ

おの、の、ろ、の、室、を、流、流、が、う、も、く、と、お、り、時、と、い、ま、ま、ぐ、お、の、ど、ら、ま、こ、う、ち、こ、
ほ、ろ、り、の、と、り、け、ん、あ、ま、さ、の、の、り、お、り、ま、よ、り、ま、け、り、と、ま、ま、こ、い、し、り、く、し、湯、若
ま、た、れ、ぶ、さ、ま、ま、い、ほ、の、こ、い、き、う、ち、よ、お、く、れ、け、り、い、し、り、ま、は、二、層、の、ま、の、花、の
穗、杼、呂、ま、ま、ま、ま、い、し、り、も、と、よ、ら、う、と、い、う、い、う、お、れ、り、う、く、は、こ、う、お、り、

う、げ、り、り、の、う、り、ま、の、一、の、ゆ、け、ん、の、し、り、ゆ、く、と、ろ、お、り、と、ろ、う、ぐ、り、ま、ま、え
う、ら、く、お、り、さ、ん、ゆ、う、と、や

夜之穗、杼、呂、出都追来良久、遍多数成者、吾曾、截、燒、如、

よのほ、ろ、ろ、い、げ、り、と、い、う、こ、い、ま、ま、の、な、れ、わ、ご、じ、む、き、る、と、や、と、ご、こ、と

く、ら、く、は、あ、ま、と、と、ま、あ、の、ま、ご、り、の、ご、ま、い、け、り、ま、あ、り、ま、ま、の、あ、や
と、い、い、る、れ、の、ま、ご、い、遊、仙、窟、云、未、曾、飲、炭、暖、燠、如、焼、不、憶、吞、又、腸、穿
似、割、ま、ま、く、も、ま、う、れ、り、

大伴田村家之大嬢、贈妹坂上大嬢歌四首

外居而、戀者、苦、吾妹、子、字、次、相見、六、事、計、為、與、

よ、ろ、に、あ、り、こ、と、な、れ、く、ら、く、や、ま、ま、こ、ま、ま、ご、り、あ、い、し、り、こ、い、ま、ま、せ、よ

い、や、ま、ま、こ、は、ま、ま、の、い、わ、い、し、り、け、せ、よ、事、と、は、れ、い、し、

遠有者、和備而、毛有、字、里、近、有、常、聞、乍、不、見、之、為、便、奈、沙、

とわらわらばさびしはわらんよまはちちのあやまきこつみねのうらぶら

まきくぬりてあはれ

白雲之多奈引山之高々二吾念妹字將見因毛我母

志しものもあひくやまのこびりおひりいりもみしよりたがも

かゝりくといん存のいおのほつていもくことまきもまきも

けまに仰ぎせしむまようつらまあまきこのけまのあまきのまき

くしおつてこそまきあまきとまきしつてまきとまきしつてまき

まき十二まきの日よおつ一月のまきまきまきまきまきまきまき

よらしむいせしけしんのかくまきとつてけしんといつかははらうまき

何時爾加妹字牟具良布能穢屋戸爾入將座

いのちんときあいのいもむむむのいよまきまきまきまきまき

まき十九むむむむい伊也まきまきまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

葎草 毛久良

右田村大嬢坂上大嬢并是右大辨大伴宿奈麻呂卿之

女也卿居田村里号曰田村大嬢但妹坂上大嬢者母居

坂上里仍曰坂上大嬢于時姉妹諮問以歌贈答

大伴坂上郎女後竹田庄贈賜女子大嬢歌二首 神武紀

皇師立治之處是謂猛田式大和国十市郡竹田神社あり大嬢ハカ

おつの妻

打渡竹田之原爾鳴鶴之間無時無吾戀良久波

うちわらわらふけのほらふわくことまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

とらけくしんりてあけいこつと、おのあとおひくもよせしや

早河之湍雨居鳥之縁手奈彌念而有師吾兒羽裳何怜

たやのはのせよあそるそのよりおまおまひてあやうけつこいもあまね

あ河の湍は雨を... あまねも...のよよとあてもそれ...我子の位をよ
こしよ... こよび子のけ...しよ... あまね

紀女郎贈大伴宿禰家持歌二首 女郎名曰小鹿也

神左夫臨不欲者不有八也多八如是為而後二佐夫之家

年可聞

かみきぎういぢふあわうぢやとおかかくてのちふいづいづいのも

神左... いぢふあわうぢ... あまね
若使... あまね
とらけ... あまね

よ下... あまね
いぢふ... あまね
あまね... あまね

玉緒糸沫緒二搓而結有者在手後二毛不相在目八方

たまのそあわをふよまをまじまされれありてのちまもいほまがらあま

あまね... あまね
あまね... あまね
あまね... あまね

あまね... あまね
あまね... あまね
あまね... あまね

大伴宿禰家持和歌一首

百年爾老舌出而與余年友吾者不厭戀者益友

とせふおのづこいでよむいもこれいよけいごいをまをとも

よむい歯おちる老びの抱いよ声とよ物ほふよとたのこつて

はくおとえへまう空をいりこいおちるいもまはらふよ

在久通京思留寧樂宅坂上大嬢大伴宿禰家持作歌一

首

一隔山重成物乎月夜好見門爾出立妹可将待

ひとよまへなれるものつくよみかほよいでつちいものまつらん

一ま山に城名よあはれ久途をまゐると山一まへそふれいをなれら

るよつれらる心いふも隔るはらげやもいひのこまといはむよ

妹はつよましく待つにわくんとく可ははるべ

藤原郎女聞之即和歌首も久途の都の言女わらへたの言と

坂上大嬢はつれとつりくと大嬢の心といひいなりとてよめらる

路遠不來常波知有物可良爾然曾將待君之目乎保利

みちとわくことと志れるものがらふまつらんききみごめをほち

おうらふおたなつあふまごいさごといふよ回ドめとつりおこ

くくくくく

大伴宿禰家持更贈大嬢歌二首

都路乎遠哉妹之比來者得飼飯而雖宿夢爾不所見來

みやこぢととやみやいものこのころけひてぬれといめなみえこぬ

都は久途のまへいみかやハ遠さやえ津武紀祈とうけい河ア誓え

新よの古はる事三葉十二よけいのあは飼飯とさるこに何の法

はるべいと空をいりよは新てぬれどおほの遠きあや妹がまよ

今二下
首字

久成行而早見奈

今所知久通乃京爾妹二不相久成行而早見奈

いふまじらむこれのみやこよいもふあつたいさくちかぢめゆさうてやれ

と秋のよりのまじりゆき久成の京に居るた京に妹とるめあつて

久しとまじりねがひてまじり久成と

大伴宿禰家持報贈紀女郎歌一首

久堅之雨之落日辛直獨山邊雨居者鬱有来

いさかしのあめのあつたいそぢいさやまよをいづせかまけり

大伴宿禰家持從久通京贈坂上大嬢歌五首

人眼多見不相耳曾情左倍妹乎忘而吾念莫国

いとめちやふあたまのめぐりてまじりいそぢわかれてわのもぢくふ

いよとくぬとゆりいわけれんはこよまをいそぢやとつてまじり

偽毛似付而曾為流打布裳真吾妹兒吾爾戀目八

偽毛似付而曾為流打布裳真吾妹兒吾爾戀目八

いつそもふつきてまじりうつりまじりわきまこわれふこひめや

うつくしハ眼又ハ頭の子のをまじりけあつてまじりまじりまじり

らふとまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり

まじりまじり

夢爾谷將所見常吾者保抄毛友不相志思諾不所見武

いめあつてみえりわかれはほろけどもあひもたねばうへみえさうん

ほろけどもはほろけどもとまじりまじり保の湯をみえり

保とまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり

よしていそぢくまじりまじりまじりまじりまじりまじり

まじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり

考工入ししううんをぬいしんこしうて不相志思の志ハゆ樟ちんちん
 うりこよむちをまのゆ樟のつれをどく候る志ハ折文をくあひ
 ぢしねばなふべしえ唐本不所見の下有の事あり宣事とていふ事ハ
 邦の後まへほまけしとまことあんの林代紀子祝と係作扱とあれはう
 又志ハ者の信うく不相思志をて下よ又修ねるのしんり

事不問木尚味狭蓋諸弟等之練乃村戸二所詠来

こころぬきまららあちさあむららうぬのむいふふあむむのれん
 百千遍戀路云友諸弟等之練乃言羽志吾波不信

かしらひこころむららうぬのむいふふあむむのれん
 比ニそく何の信うあむいかなるもまららうぬのむいふふあむむのれん
 じんこのかひつるこころぬきまららあちさあむららうぬのむいふふあむむのれん
 じんあちさあむららあちさあむららうぬのむいふふあむむのれん

考工

大伴宿禰家持贈紀女郎歌一首

鶉鳴故郷後念友何如裳妹雨相縁毛無寸

うつらなくもあまのしとゆおむらうたのふぞもいりあまのしとゆ
 うつらなくもあまのしとゆおむらうたのふぞもいりあまのしとゆ

紀女郎報贈家持歌一首

車出之者誰言雨有鹿小山田之苗代水乃中與杼雨四手

こころぬきまららあちさあむららうぬのむいふふあむむのれん
 こころぬきまららあちさあむららうぬのむいふふあむむのれん
 こころぬきまららあちさあむららうぬのむいふふあむむのれん
 こころぬきまららあちさあむららうぬのむいふふあむむのれん

大伴宿禰家持更贈紀女郎歌五首

吾妹子之屋戸乃芭子見爾往者盖從門將返却可聞
わがここのやどのまのまをみよゆきけりかたよるかへらん

打舛爾前垣乃酢堅欲見將行常云哉君子見爾許曾

板盖之黒木乃屋根者山近之明日取而持將參来
いづまのくろきのやねのあきもつらうてまらん

遷都のけしきいふは送るもろくはくへ一はふのけしきいふは
月あつて後紀神龜元年十一月太政官奏言と其板屋草舎中古
遺制難管易破といふもあれはまはらも板やねの室を取の上

和ヲ知
ニ誤

黒樹取草毛刈尔仕目利勤和氣登將譽十方不在
くろきとしかやもかりつづめいさきわけがめんわび
一云仕登母

和とくを知も誤りしより判しりなり和氣は汝と云ふことよきあくま
いしハ紀子勤のま刈り後紀天智勝宝二年三月東人等賜勤
臣姓ともしく同幸伊藤志臣東人といふことよきあくまのこ
つづめられぬよきことよきいさきわけがめんわび
七二そハあまはつたのちいふこと
野干玉能昨夜者今還今夜左倍吾手還莫路之長手呼
ぬまのたまのよかへつこよいさきわけがめんわびのなをてを
ちまはちをよきことよきいさきわけがめんわび

紀女郎霽物贈友歌一首女郎名目

風高邊者雖吹為妹袖左倍所沾而川流玉藻鳥
かぜのうへはふたれといもめそとまぬれてかれるたまもぞ

遠海もて鳥馬の保なり妹の女たちをさるるなり

大伴宿禰家持贈娘子女歌三首

前年之先年後至今年意跡奈何毛妹爾相難

ととりのささるるよりこもてこれとぞいふあひかき

そとりの遠つちもてささるるを先つとよるとんまを六とささるる

まのつちもてささるるを遠つちもてささるる

打乍二波更毛不得言夢谷妹之手本乎纏宿常思見者

うつみはさふれといはさいぬもたれつたりとまさぬとみど

取まはさふれといはさいぬもたれつたりとまさぬとみど

惜之情
二條

五戸之草上白久置露乃壽母不有惜妹爾不相有者

わが草のよき上りてきを置る惜と情はほれくえ唐あふよとて改つ

室をハ壽ハ身のほれくえとて改つて情はほれくえ唐あふよとて改つ

室をハ壽ハ身のほれくえとて改つて情はほれくえ唐あふよとて改つ

室をハ壽ハ身のほれくえとて改つて情はほれくえ唐あふよとて改つ

大伴宿禰家持報贈藤原朝臣久須麻呂歌三首

後紀大

平室字三年授授五位下藤原惠美朝臣久須麻呂後四位下

訓儒麻呂

春之雨者彌布落雨梅花未咲久伊等若美可聞

はるのあめはいやまきふるふゆめのをれいまづさかぬくばわつみのも

あめまきふるはるのあめはいやまきふるふゆめのをれいまづさかぬくばわつみのも

あめまきふるはるのあめはいやまきふるふゆめのをれいまづさかぬくばわつみのも

如夢所念鴨愛八師君之使乃麻禰久通者

いめのくもたかゆるのもちまをよきみがつひのまねくかよご

うつのかしをたまきんもひくちをさくらさうくうま

浦若見花咲難寸梅子殖而人之事重三念曾吾為類

うらわのみをわのまきかきさうめとうきていよそいのみいぞわのす

うらまのまきそくは枝のまきそくちくくうまいそくうあり

くまけいハ言ハしきくく

又家持贈藤原朝臣久須麻呂歌二首

情八十一所念可開春霞輕引時二事之通者

くろくおもゆりもはるがきくをびくとまよこしかよは

んぐいよまの山あきるひさしくとらうとけいもなれはれ

らうくくひりきく

春風之聲雨四出名者有去而不有今友君之隨意

はるせのむらみてなはあうきやういまうすまきまのまひく

風のまといくはまよこしていふも若くまあうばあくて君のいん

まよひむき

藤原朝臣久須麻呂来報歌二首

奥山之磐影雨生流管根乃勤吾毛不相念有哉

おくやまのいづはなむらさきのねのねこらとけいあひまをさくれや

かへねむらういん存のみあひまはざれやおとどをこハおとど

春雨乎待常二師有四吾屋戸之若木乃梅毛未含有

はるさめをまつとああらうわやとのわきのうめしあふふのい

やめこいつがめくまぶいんけをれはよりいんけを待らんとい

いんけ

萬葉集卷第四

春風之聲聞也出於東之方而吹於西之方也

[Faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side]

010190519150

